

奈良小学校区ハートフル・ミーティングの概要

- 1 日 時 平成 23 年 8 月 27 日（土） 午前 9 時 30 分から 11 時 30 分
- 2 場 所 奈良公民館
- 3 参加者 43 人
- 4 会議の概要

○質疑応答

（1）子育て支援について（福祉）

市民

私は昔の人間なので、「子育て支援」という言葉には違和感があります。私たちの時代では、例え飲まず食わずでも自分たちの力で子育てをしてきました。

それなのに、今の時代に子育て支援が必要になったのはどうしてでしょうか。共稼ぎをしないと生活が成り立たず、子どもに手が回らない家庭が増えたからでしょうか。それとも他に何か理由があるのでしょうか。

市長

今おっしゃられたように、考え方の入り口としては「共稼ぎをすると子どもの面倒を見る人が家にいなくなる。だから、社会で子育てを応援しよう」ということで結構だと思います。ただ、社会の高齢化がものすごいスピードで進んでいるということも併せて考える必要があります。今、65 歳以上の高齢者が人口に占める割合が急増し、生産年齢と呼ばれる 15 歳から 64 歳までの人口が減り続けています。このままでは、日本の経済がどんどん収縮していきます。この状況を打開する一つの鍵が、生産年齢にある女性に社会復帰してもらい、男性と等しく社会参画をしてもらうという考え方です。女性が働くことで家庭の経済力が上がれば、世の中のお金もうまく循環するようになり、結果として高齢者の福祉のために使えるお金も増えることとなります。

先日の県知事選挙で上田知事が「ウーマノミクス」という言葉を使っていました。これは女性を表すウーマンと経済を意味するエコノミクスを組み合わせた言葉で、やはり「女性の力で経済を強くしていこう」という意味合いが込められています。しかし、女性が働きに出るためには、誰かに子どもを見てもらう必要があります。おじいちゃんやおばあちゃんに見てもらえればよいのですが、そうでないと保育園や幼稚園に預けることが必須になります。つまり、ウーマノミクスという考え方は子育て支援という後ろ盾があって初めて成り立つものです。このことから、子育て支援にはこれまで以上に取り組んでいく必要があると考えています。

それに、昔の子どもたちと違って、今の子どもたちは非常に複雑で多様化した社会の中に育っています。また、いろいろな情報がどんどんと頭の中で

交錯する時代でもありますから、子育ての悩みを抱え込んでしまっているお母さんも多くいらっしゃることでしょう。そういったお母さんが「※1地域子育て支援拠点」で同じような悩みを持つお母さんたちと一緒に「うちはどうしたよ」、「ああしたよ」と情報交換をすることで楽になる部分もあると思います。今後はそういった取組も進めていかななくてはならないと考えています。

また、子育てがしやすい職場環境づくりに取り組んでいる会社が市内にはたくさんありますので、「※2熊谷市子育て支援優良企業」に認定をして、市報やホームページで皆さんに御紹介をしています。

※1 地域子育て支援拠点：市内に17か所あり、親子が交流する場として御利用できます。

また、子育て関連情報の入手や、子育ての悩み相談もできます。下記のホームページに各会場の紹介があります。

<http://www.city.kumagaya.lg.jp/kakuka/fukushi/kodomo/oshirase/chiikikosodatekayoten.html>

※2 熊谷市子育て支援優良企業：下記のホームページで御覧いただけます。

<http://www.city.kumagaya.lg.jp/kakuka/fukushi/kodomo/oshirase/yuuryouninnteiseido.html>

市民

もっと掘り下げると、結婚しても子どもを作らない人たちや、そもそも結婚をしない人たちもいます。そうすると人口が減ってしまうので、この辺りで私たちも何か手を貸さなければいけないという責任感を感じてもあります。

市長

そういった方々にはそれぞれ御事情や理由がおありなのだと思いますが、子育て支援につきましては今後とも一生懸命に取り組んでいきたいと思っています。

市民

児童虐待のことでお聞きします。テレビなどで「児童相談所も虐待に気付かなかった」とか、「いろいろな所で何度も相談を受けていたのに、虐待を防げなかった」ということを耳にするたび、とても残念に思います。

行政として、もっと強制力のある対応で子どもたちを守ることはできませんか。

福祉部長

今、児童虐待は全国的に大きな問題となっています。熊谷市でも月に一度、「要保護児童対策地域協議会」という作業部会を開き、県の児童相談所や保健所などの関係機関とともに様々な事例の対応策を研究しています。昨年度、熊谷市で寄せられた児童相談は335件ありますが、そのうち虐待に関する相

談は 81 件でした。

意外に思われるかもしれませんが、虐待の加害者として特に多いのは、お母さんです。そのため、市では「こんにちは赤ちゃん事業」を行い、生後 4 か月までのお子さんがある全ての御家庭を保健師が訪問し、実際のお子さんの様子を見させていただいています。そして、必要と思われる場合には養育支援を行っています。

先程の御質問にも関連しますが、今の時代、「子どもができて親になる」ことはできても、「親として子どもを育てる」ことができない傾向が非常に強まっているように感じています。このような状況を考えますと、市としてもより一層子育て支援に力を入れていかなければなりませんし、地域で支え合っただけで必要も出てきているのだと思います。

お配りをした「※³子育てするなら熊谷市！子育て応援マップ誌」の中には、子育てサロンや子育て応援団体のほか、子育てサークルや子育て支援拠点が掲載されています。子育て中のお母さん方には是非こういった所に出かけていただき、お互いに悩み事を相談する中で解決のできる問題もあるのではないかと期待しています。また、このような子育て支援が結果として虐待の防止につながっていくと考えています。

また、今年の 5 月には民法などが改正されて「※^{4・5}親権の停止」ができるようになるなど、国も動きを見せています。市としても、このような法律の変更を踏まえつつ有効な対策を検討してまいります。

※³ 「子育てするなら熊谷市！子育て応援マップ誌」：NPO 法人「子育てネットくまがや」と熊谷市福祉部こども課で発行した冊子です。掲載されているマップの内容は、同 NPO のホームページで御覧になれます。

<http://www.kosodate-ooen.net/>

※⁴ 親権：未成年の子どもを育てるために親が持つ権利と義務の総称。

※⁵ 親権の停止：これまで、虐待をする親の親権を制限して子どもを引き離すためには、親子関係を無期限で絶つ（親権喪失）しか方法がなく、その影響の大きさを考えると、実際には使いにくい制度となっていました。そこで、最長 2 年間という期限付きで親権を停止できる制度を作ることで、虐待をする親と子どもを引き離しやすくしようとするものです。

市長

せっかくこのような話題が出ましたので、この機会に皆さんにお願いしたいことがあります。

もし、御近所で「あの家はいつも泣き声が絶えない」など、何か虐待が疑われることがあれば、どんな小さなことでも結構です。遠慮なく知らせてください。「これは話さなくても大丈夫かな」と思うようなことでも、万が一の

ことがあります。手遅れになるぐらいなら、行き過ぎるぐらいの方が良いと思っています。連絡先は、民生委員さんや市役所、あるいは県の児童相談所など、どこにでも結構です。もちろん、情報の出所は絶対に分からないようにします。

御連絡を頂ければ、市の職員がその御家庭を直接訪問したり、民生委員さんに様子を見に行ってもらったりすることもできますし、緊急を要する案件では強制的な権限を持つ児童相談所が直接介入することもできます。

ですから、虐待が疑われる場合には、是非遠慮なくお話をしていただけるように重ねてお願いをいたします。

市民

今のお話は、小さなお子さんだけでなく、小学生や中学生、高校生のことでも相談に行ってもよいのでしょうか。

市長

はい。大丈夫です。

市民

その場合は、市役所に行けばよいのですか。

市長

市役所の場合は、こども課という部署に御連絡をください。

(2) 活気とにぎわいの創出

市民

先程のテーマは子育て支援でしたが、子どもたちがもっと大きくなったときのことでお聞きします。

若者が就職をして地元を出て行ってしまうと、熊谷に残るのはお年寄りばかりになってしまうのではないかと心配をしています。市内の若者が地元の企業へ就職する割合はどのくらいでしょうか。

また、東日本大震災の影響で倒産する企業が出るなど、就職難の問題もあります。若者が地元で就職できるようにしたり、市内へ企業を誘致したりするために、行政としてはどのような取組をされているのでしょうか。

市長

はい。まず、高校生の就職や就業については、県やハローワークなどと一緒に「熊谷地区雇用対策協議会」を作り、情報交換をしているところです。現在、就職活動は学校が主体で行われていて、求人も学校へ直接来るようになっていますので熊谷市として仕事を斡旋することはしていません。地元へ

の就職率については、手元に資料が無いので正確な数字はお伝えできませんが、特に熊谷商業高校や熊谷工業高校といった専門高校では、全国平均を上回る高い数字となっています。就職先のリストを見ても、あまり遠くへは行かず近隣で就職をしているようです。もっとも、大学卒業後の就職では遠くへ行ってしまう可能性もあります。

企業の従業員採用については行政があまり立ち入れない部分ではあります。経済団体の集まりなどで「是非、地元での雇用に配慮してください」というお願いをしています。

また、従業員を採用しようとする企業の数が増えないことには、地元で就職をする人の数も増えませんから、なるだけ企業を誘致して働く場所を確保したいと考えています。今は^{※6}都市間競争の時代ですから、それぞれのまちが自分たちの所に進出してくれる企業への支援策を競い合っています。その中でも、熊谷市が4月から施行した条例は非常に中身が充実しているものと自信を持っています。具体的には、「熊谷市民を新たに1年間雇っていただければ、1人につき30万円の雇用奨励金を企業にお支払いします」という制度を「2年後（採用からは3年後）にも20万円の雇用奨励金をお渡ししますから、是非、熊谷市民を採用してください」という内容に充実させました。

おっしゃられるように、若者が遠くへ行ってしまうのは寂しい限りですから、今後もなるだけ地元での雇用が進むような環境整備をしていきたいと考えています。

※6 都市間競争：少子高齢化が加速する中で、それぞれの自治体が過疎化や地域経済の縮小を防ぐために、人口と産業（企業）を確保しようと競い合うこと。

市民

奈良小学校の西側から南に向かって延びる緑道（東武鉄道熊谷線の跡地）がありますが、将来、この緑道を自動車の通れる道路として整備するときに自転車専用道も造る計画はありますか。

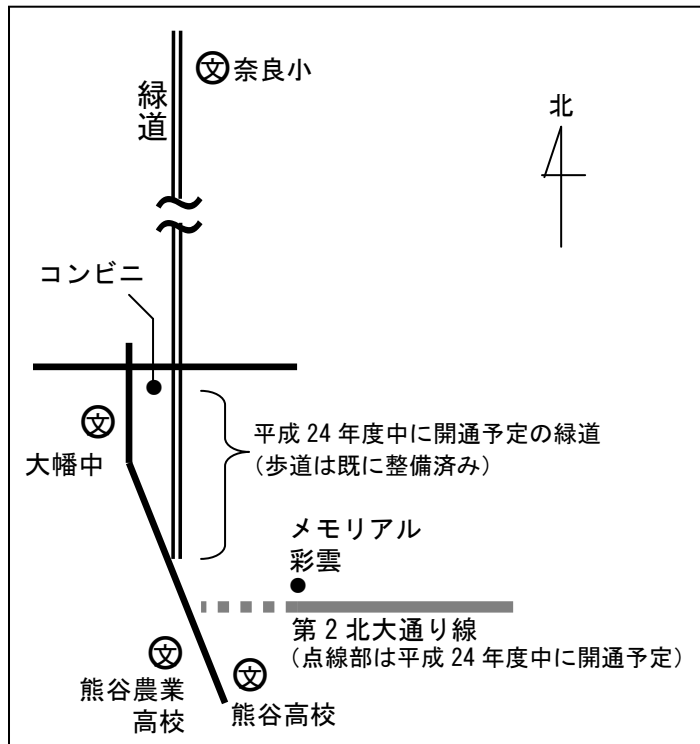
通学のために自転車で通る高校生も結構いますし、小学校のすぐ近くですから、自転車専用道があれば、子どもたちの安心と安全のためにも良いと思います。

市長

御質問の緑道を南にずっと行くと、熊谷高校と熊谷農業高校の間を通る道路にぶつかりますが、その辺りが緑道の終点です。この終点から北に少し戻ると、大幡中学校の近くのコンビニエンスストアに面して東西に走る道路があります。この区間の緑道は平成 24 年度中に道路整備をして供用を開始したいと考えています。

また、道路は一部分だけ造っても、他の道路とつながらないと十分な効果が得られませんから、緑道の終点付近から「第 2 北大通り線」という道路につながるよう、そちらの道路整備も進めているところです。

今お話をしました所から北に向かって国道 17 号バイパスに至るまでの緑道は既に歩道ができていて、あとは真ん中の車道部分を舗装すればよい状態になっています。最終的にはそれと同じような道路形態で奈良小学校の横までの緑道を整備する計画になっていますが、両側には既に建物がありますので幅を広げることはできません。御質問の自転車専用道はその幅の中に組み入れることができるのかどうか、また、できないのであれば自転車の安全をどう確保していくのかは今後検討していきたいと思えます。



市民

深谷バイパスの玉井北交差点から南西に延びる道は急に細くなっていて、カーブもしています。この交差点に面したガソリンスタンドやコンビニエンスストアから出入りをする車もあって、いつ事故が起きてもおかしくない危険な状態だと思います。

市長

交差点から南西に延びる道は、側溝の上も車が走れるようになって、昔と比べると多少は幅員が広がりましたが、まだ狭くて通りづらいということですね。

市民

道幅が狭いので、通学中の高校生が乗る自転車のすぐ後ろを自動車がついて走るような状態です。歩行者もいますし、今のままでは危ないと思います。

市長

この道路は県道（葛和田新堀線）ですから、熊谷県土整備事務所が管理をしています。改善をするには道幅を広げるしか方法が無いと思いますが、恐らく県も財政的に厳しくて、なかなか予算が確保できないのかもしれない。

市民

今のうちなら、まだ道路沿いに家が建っていません。家ができてからでは道路を広げることも難しくなると思います。

市長

熊谷県土整備事務所にそのような計画があるのかどうか、確認をしてみます。また、地域からこのようなお話が出ていることもお伝えをしておきます。

○市長のまとめ

皆さんの貴重なお時間を頂き、いろいろなお話を聞かせていただきました。本当にありがとうございます。

今回、小学校と中学校の校長先生にもお越しをいただいておりますが、学校では子どもたちの教育に非常に熱心かつ自信を持って取り組んでいただいています。それができるのも、自治会やPTA、おやじの会など、地域の皆さんがいろいろな形で学校との関わりを持ってくださっているからこそだと思っています。先程、社会全体で子育てを支援するという話題も出ましたが、教育や地域のにぎわい作りといったテーマも地域全体で取り組んでいかなければならない課題だろうと思っています。

今日はこの場にたくさんの方にお集まりいただきました。この機会を通じて「私たちの地域では今こういう問題があるんだ」、「こういう考えを持つ方もいるんだな」ということを知っていただき、地域としての共通認識を持って問題に取り組むきっかけにさせていただくことができれば、私としましてもハートフル・ミーティングを続けてきた価値があったと嬉しく思うことができます。

ところで、今年は火災が非常に多く発生しています。去年1年間の火災は73件でしたが、今年は8月末の時点で既に71件も発生しています。放火への警戒も含め、くれぐれも火の元には御注意ください。

最後になりますが、これからも地域の皆さんの声を大切にしながら行政運営にあたってまいります。今後とも皆さんの御協力をよろしくお願いいたします。